

令和7年度 第1回 学校関係者評価委員会における評価項目ごとの意見及び今後の対応

岐阜県立多治見看護専門学校

評価項目	評価委員からの意見	今後の対応
学校経営	・学校関係者評価委員会での意見に対して丁寧に対応されていると感じた。 ・組織目標を教員が周知し、全職員で連携して問題解決に取り組むことができ、次年度に繋げることができている。 ・学校全体で組織目標を共有し、学校運営につなげることができた。	・学校関係者評価委員から、前向きな評価をいただくことができた。引き続き組織目標を年度当初に職員で周知し、より良い学校経営に取り組みたい。
学科運営	・卒業生の看護観に生活者の視点が持てるようになったことは、とても良い。生涯を通しての自分のキャリアプランを描けるようになってくれるととても良い。 ・新カリキュラムへの対応もしっかりされている。実習施設として、先生方と情報共有して実習指導者の育成に取り組んでいきたい。 ・2か月前に時間割を配布したり、臨床連絡会議でのがやがや会議等、学生が学びやすいよう、臨床が受け入れやすいように様々な工夫、学科運営での教員の努力が伝わってきた。 ・学科運営の結果、学生の教育課程や活動に関する評価が大きく上昇しており、学生の教育の質を上げるために改善したことや学生への丁寧な対応による学生の評価につながっている。	・生活者の視点や今後のキャリアビジョンについて、卒業生アンケート等でカリキュラム評価と合わせて調査項目として取り入れたい。また、看護の実際の中で生活者の視点をもちながら対象と関わるができているのか、施設も含めてご意見を賜ることを検討したい。 ・新カリキュラムの指導内容についても、臨床のご協力によりと連携を図ることができている。引き続き、臨床連絡会議などの機会を活用していく。 ・学科運営については、学生に対して丁寧に説明責任を果たして行くことが重要であると考えている。様々な学科運営の機会を通して説明責任を果たしていく。
入学・卒業対策	・大学とは違う専門学校の強みを示せるとよいが、臨床（病院以外の看護現場）の看護職と近い感じが持てるものがあるとよい。（実習とは別に） ・高校訪問、ホームページ更新など学生確保に取り組まれている。就職については、当院または、県内就職割合が減っていることに実習施設としては問題視している。就職したい病院となるよう取り組んでいきたい。 ・入学生の確保はどこの学校も課題となるが、学生確保のために、今後もさまざまな取り組みが必要だと考える。 ・国家試験合格率100%は個々の学生に対しての学習支援がうまくいっている結果と考える。 ・コロナ禍で制限されていた活動を再開するなどして、入学生確保のために様々な活動が行われた。また、国家試験対策や卒業生交流会などを行う事で卒業生支援も手厚く行われている。	・実習場所の指導者方にご協力をいただき、授業の一環として臨床の看護師を交えた演習を行うなど、当校独自のリアリティある授業を工夫し魅力あるカリキュラムを検討する。 ・今年度、オープンキャンパスのリーフレットを広報課の助言をいただき、今までの物より刷新した。引き続き若者の興味を引くリーフレットの作成を心掛けたい。 ・実際に対面しながら、入学案内を説明する機会として高校訪問を拡充した。引き続き、高校からの要望があればガイダンス等積極的に実施していく。

評価項目	評価委員からの意見	今後の対応
学生生活への支援	・進学・就職において模擬面接やエントリーシートの記載方法など手厚く指導されている。意見箱への回答、スクールカウンセラーと連携して、学生一人ひとりに応じた支援がされている。 ・今般の変革の時代にこれまでにないアイデアや規制の緩和を推し進めて行って欲しい。例えばSNSの活用については学生の確保・学科運用など使い方によってはさまざまな運営効果があると思う。学生に対する髪色（これからの時代、患者様の価値観も多様。黒髪で引っ詰めた髪を好まない方も大勢いらっしゃる）などの制約の解除など。アンケートに記載された学生さんの声にしっかり寄り添った支援をお願いしたい。トイレの改修に至っては、健康に必要な最低限の生理的欲求に関しても今の時代にそぐわない低い環境であり驚いた。早急な改修を望む。 ・精神的問題や発達障害を抱えた学生が増える中、ストレスチェックやカウンセラーによるカウンセリング等精神面に対しても個々に対応している様子が伺えた。 ・ストレスチェック方法の改善や、それに係る面談等丁寧に学生に対応できている。学生の評価も昨年度に比較して上昇しており、学生生活への支援の効果が結果として表れている。	・X、Instagram等、SNSなどを利用した広報活動、学科運営については、自校での取り組みに限界があるため、外部に協力を仰ぐなど今後検討していく。 ・校務支援システムを運用しているが、十分な活用までは至っていない。県立三看護学校同様のシステムを導入しているため、連携を図り、さらなる活用をしていく。 ・学生の髪色をはじめ、学生への様々な規制に関しては時代を反映した内容となるよう見直しを検討する。また、実習を受け入れていただく施設のご意見も賜り、学校としての方針を決定していく。 ・当校のトイレに和式が残っていることを県庁主管課も承知しており、洋式トイレへの改修やトイレの増基について前向きに検討中である。 ・現状として精神的な脆弱性、発達障害を抱える者や家庭内の問題が学業に影響が出ている者など多様な学生が増えている。引き続き、ストレスチェックの定期的な実施やスクールカウンセラーと連携し個に応じた丁寧な対応を継続していく。
教職員の育成	・三看護専門学校をつないだ研修ができるのは良い。もっと強みに変えていけないか。 ・校内での研修会の実施や外部研修での学びの成果を共有するしくみがあり教員の育成に尽力されている。 ・日々業務に忙しい中、授業研究を行っており効果的な授業を行うために良い取り組みである。また新任教員のフォローにも繋がると考える。 ・研修への参加と伝達講習、授業参観などの積極的な取り組みにより、教員の質の向上に努めている。	・ゲートキーパー研修やハラスメント研修は県立三看護専門学校が連携してリモート研修を実施している。今後も本研修を継続していく。 ・一人1回／年以上研修を受講し、伝達講習会を実施していく。学びの共有とともに意見交換を行い学び合いを深化できる機会としたい。 ・授業参観、授業研究は継続し、よりよい教育の実施について努力したい。本取り組みを看護協会の事例報告等の機会をとおして学校の教育の現状についても理解がいただけるような活動も検討していく。
管理運営・財政	・個人情報保護に関する指導、災害時への意識の向上に努めている。 ・学生生活実態調査を行い学生の要望を聞くことで、できるところから取り組んでいけるとよいと考える。 ・予算確保が難しい中、備品等の老朽化に対して学生の学習環境を整備するため予算の範囲内で工夫されている。	・個人情報の保護については、実習の度ごと情報リテラシーに関するDVD視聴および個人情報自己チェック表を用いて情報の取り扱いに対する意識向上を図っており、効果があると考えている。引き続き実施していく。 ・備品の整備は数年先までを見越し、計画的に実施していく。

評価項目	評価委員からの意見	今後の対応
施設設備	・図書室で他者に干渉されずに自習できる環境を望む学生の要望に対して、限られた施設の中で対応されている。 ・トイレについては和式もあり、早急に改善できると生活環境もさらに整うと考える。構造上仕方がないが更衣室と教室が離れており、不便だと思った。建物の老朽化はあるが清掃が行き届いていており、大切に使われていると感じた。 ・施設の老朽化にある中で学生の学習環境を整備するための工夫はされている。例年学生から要望の多いトイレや水回りの環境については、順次対応していることを伝えるとともに、学校としてできることを継続的に行っていただくとよい。	・トイレの改修については学生生活への支援の対応の中でも述べた通り、改修に対して前向きに検討中である。 ・設備については、現状を維持するよう日頃の清掃を丁寧に行い、故障、破損には速やかに対応していく。
社会貢献 地域活動	・中学校への出前講座を実施して看護職の魅力を伝えることで、看護職人口増員に貢献されている。 ・授業参観や職業講座等、学校のアピールにも努力されている。 ・ホームページの工夫、ご家族への授業参観、地域の方々との交流の場を企画するなど、学校の理解を促す企画や社会貢献への取り組みが行えている。評価点も昨年より大きく上昇しており、取組みの成果が表れている。	・看護職を希望する人材を少しでも増やすよう、地域への発信や中学校、場合によっては小学校などへも出向きアピールしていく。 ・ホームページの更新は、機会がある度を実施し、閲覧者が少しでも興味を持ってもらえるように視覚的に訴える工夫をしていく。